



皆様の「快適な暮らし」のヒントに すまい造りメール

第180号 2017年3月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成29年2月24日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

Amappo ～勝手に街キャラ～

追浜では、日産やオカムラがある追浜工業団地から続く夏島貝塚通りと国道16号線が接する京浜急行追浜駅前を中心に様々なイベントが開催されています。これらの道路と線路を結びとちょうど弓矢の形になります。ローマ字の「oppama」を後ろから反対に綴ると「amappo」となります。自然の恵みに感謝をする民族アイヌ人にとってアマッポとは仕掛け矢を意味します。そこで、常に右肩上がりの未来に向けて弓矢を放とうとしているキューピットを「Amappo」と命名し、勝手に追浜の街のキャラクターに制定しちゃいました。



追浜の街の非公認キャラクター
Amappo (アマッポ)

平成6年の新築工事以来、住宅設備のメンテナンスなどを担当させていただいているお住まいをご紹介します。

今回は、屋根や外壁などの外装塗装です。足場を設置して高圧洗浄をしたあと、補修や補強する箇所がないか点検し、最近の夏の猛暑を少しでも快適にお過ごしいただけるようにコロニアルの屋根は遮熱塗料で2回塗りしました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

サイディングの外壁は、つなぎ目や窓廻りのコーキングを打ち直し、既存のサイディングをエポキシ系塗料で2回塗りしました。雨戸や鏡板も既存と同じ色で塗り直しました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



Stock ～エコリフォーム～

住宅ストック循環支援事業補助金制度がスタートしました。この制度は良質な既存住宅の市場流通を促進し、若者の住居費負担の軽減及び既存住宅流通市場の拡大、耐震化率・省エネ適合率の向上等良質な住宅ストックの形成及びリフォーム市場の拡大を目的としたもので、以下の3つの取り組みに対して支援されます。



- ①良質な既存住宅の購入
- ②住宅のエコリフォーム
- ③エコ住宅への建替え

いずれの支援措置も自ら居住する住宅（持ち家）が対象となります。

ご質問などがございましたら、お気軽にお声掛けください。

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. **Next50**
創刊 2002.4.1.

よこすか文学館

横須賀に生まれ育ち、広島海軍兵学校で終戦を迎え、その後、短歌の道に精進し、数々の作品を残した島田修二についてご紹介します。

第三回（横須賀詠歌③）
五十年刹那に返す
戦時なる
中学生歌ふ校歌「坂東武者」
島田修二

最後の歌集『行路』所収（2000年）。島田は、1941年（昭和16年）4月から1945年3月までのまさに「戦時」、横須賀中学（現横須賀高校）で学びました。当時の校歌は、「故郷」など多くの唱歌、校歌を手掛けた高野辰之が作詞したもので、「坂東武者の名を留めし 衣笠城址西にして…」といった勇壮なものでした。戦後、新制高校となり、校歌も新しいもの（歌詞補修三好達治、作曲団伊玖磨）に変わりましたが、旧校歌も応援歌として今も歌いつがれているそうです。



県立横須賀高校の正門

洗足学園中学高校教諭
中島正二

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話しを伺いました。

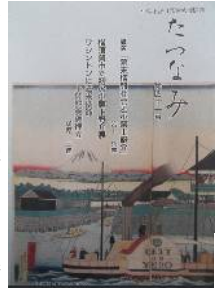
昨年（平成28年）秋に偶然「小栗上野介顕彰会」が発行する機関誌『たつなみ』第41号（平成28年8月10日発行）を拝見することができました。

その機関誌の中にノンフィクション作家の柳原三佳氏の「ワシントンに『万延元年遣米使節記念銘板（記念碑）』建立」の記事が掲載されていました。そこには冒頭「幕末、日米通商条約の批准書交換のため、初めてアメリカに派遣された総勢77名の遣米使節団（筆者註 正使 新見豊前守 副使 村垣淡路守 目付 小栗上野介）このたび、彼らの功績を記念する銘板がワシントンDCの海軍工廠に設置され、2016年（平成28年）5月13日、日米の子孫や外交関係者など約100人が集まって除幕式と祝賀パーティーが開かれました。156年前、この地を踏んだ彼らは米国民の大歓迎をどんな思いで受け止め、初めて見るワシントンの街並みに何を感じたのでしょうか」と記されています。

この記念銘板が設置されたワシントン海軍工廠は、小栗上野介ほか一行が渡米した際に視察した場所であり、特に小栗上野介はこの工場で、いとも簡単に鉄が自由自在に加工されるのを見て、こうした工場を日本にも建設しなければ、ますます西欧諸国に後れを取ってしまうので、日本近代化のためにどうしても必要なものだとの認識を胸に帰国します。そして、勘定奉行に就任するや工場建設について上申し、それが受け入れられ横須賀製鉄所建設に至ります。

この記念すべき銘板は誰の手により建設されたのでしょうか。『たつなみ』によれば「遣米使節団の副使であった村垣淡路守範正の子孫で、ワシントンに在住する子孫の会会長の村垣孝氏には、今回まさに寝る間も惜しんで記念銘板の企画立案から建立、式典やパーティーの準備までご尽力いただきました。元米国海軍所属の歴史学者エドワード・マロルダ教授も『村垣氏と出会い、親交を深める中で、遣米使節の存在を知り、彼の情熱に打たれた』と、挨拶されました」と記されています。この銘板は『たつなみ』によれば「御影石にはめられた青銅製の銘板には英文で『1860年5月14日、日本の使節たちが初めてワシントンの海軍工廠に到着したことを記念する』と刻まれています」と記されています。

こうした横須賀製鉄所建設に向けてのルーツとも言えるワシントン海軍工廠に、こうした記念すべき貴重な銘板が設置されていることをどれだけの人知っているのでしょうか。私も元気で機会があるうちに一度は訪れたい場所の一つです。
(元横須賀市助役 井上吉隆)



小栗上野介
顕彰会機関誌
たつなみ第41号

空き家めないで

日本には現在、約820万戸（総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査」）の空き家があると言われてます。総住宅数に占める割合は13.5%と過去最高を記録しています。その一方で年間約90万戸の新築住宅が建てられています。核家族化、人口減少、日本人の新築志向が強いことなどから、今後もさらに空き家が増える傾向にあります。これらの空き家のうち、使用目的が決まっていない、いわゆる放置されている空き家の老朽化が進み、その結果、倒壊の恐れが生じ、衛生面、防犯面などが近隣に、さらには街の景観に悪影響を与えるということで問題となっています。対策として、「空き家対策特別措置法」が制定され、特定空き家に指定された場合、所有者に修繕や解体の指導や勧告、命令が下されることになりました。

そこで、町内会やNPO法人などが調整役となって、所有者や近隣の方々の了解を得て、街ぐるみで空き家の有効な活用を講じる傾向が高まっています。世代を超えたつながりや業種を超えた協力など、新しい形のコミュニティが形成されつつあります。また、こうした住宅の改修費用として助成する「住宅セーフティネット法」の改正案が閣議決定されました。

「税金が6倍になる」「リノベーション」などと言葉が先行している感がありますが、「じっくりコトコト」と考えていきましょう。ご質問などがございましたら、お気軽にお声掛けください。

(すまい造りメール第150号参照)



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2017」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索